

井上

宿營地
勤務
人員

右者入院患者護送ノ為明二八日ヨリ泊二日ノ
豫定ヲ以テ名護町赤坂一八〇三部隊分隊ニ
出張ヲ命ス
今歸仁
日直下士官 陸軍軍曹 宮崎啓二
將校以下二八名

十月二十日
陣地構築

命 今三井日命第六八號

一 仲條軍曹以下四名陣地構築ヲナス
二 副官駐屯地會報出席ノ為〇八〇出發後之地
ニ到リ一八〇〇歸隊ス
井上隊命令今 十月二十八日
陸軍大尉 田中成雄

右者同日歸隊見解ノ為十月二十九日ヨリ泊三日
ノ豫定ヲ以テ第九師團ニ出張ヲ命ス
初テ明二十九日一七〇迄ニ聯隊本部ニ到ルハシ

二 梅木隊 陸軍上等兵 飯田正光
同 寺崎典一
同 西田數雄

右者軍馬受領ノ為明二十九日羽根地ニ出張ヲ
命ス
初テ同日一〇〇迄ニ港ニ又路ニ到リ杉浦中尉ノ
指示ヲ受クハシ

帶剣長袴巻脚絆トシ細引若干(約六丈)
ヲ携行スハシ
今歸仁

宿營地
勤務

日直下士官 陸軍主計在長 中田芳雄

井上

人員

將校以下二八名

十月二十九日
晴曇
陣地構築

一塩原軍曹以下七名陣地構築築柵作業之實施
二一五〇〇ヨリ本部ニテ各中銃隊内務係ヲ集メ左記

事項ニ関シ會議ヲナス

一副官會同會報事項

一駐屯地會報事項

一其他協議

三古賀軍醫少尉ハ仲宗根外五ヶ村附近傳染病

患者ノ検査ニ努ム

今歸仁

日直下士官 陸軍軍曹 塩原茂信

將校以下二八名

井上

宿營地
勤務
人員

一午前中兵器被服ノ手入ヲ實施ス

休養 二午右下士官以下休養セシム

教育 三大隊長一四〇〇ヨリ一七〇〇迄大隊將校全員ニ對シ左

記學課ヲナス

課目 現戰局ニ對シ將校トシテノ嗜シ

四臨時軍馬三頭聯隊本部ヨリ配當セル一五〇〇飯田

上等兵以下三名ヨリ受領ス

五、一八〇ヨリ大隊將校全員勤務奉仕隊ノ出勤セル部

落常會ニ出席ス

命令六、井上命第拾號

井上隊命令

十月二十日

陸軍中尉

大門正三

明三十日A地區巡察將校ニ服務スル

命令七、獨混五日命第九三號之依り左者兵精勤章附與之

陸軍一等兵 藤原庄一

同 小林誠一

同 太田弘

同 北村元孝

今歸仁

宿營地 陸軍軍曹 藤井光男

勤務 日直下士官 陸軍軍曹

將校以下二八名

井上

十月三十日

命令 井上隊命令 十月三十一日
一、仲條軍曹以下一〇名謝名部落へ農耕、奉仕ラヌ
二、井日命 第七號

一、別紙ノ通り日直將校ニ服務スル
二、十月二十八日井日命第六八號第二項中、二十九日羽根
根地村トアルヲ二十九日ヨリ一為二日務走ラ以テ羽根
地村田井等ニ下吏更々

三、陸軍主計中尉 富田良夫
同 伍長 中田芳雄

右事務連絡、為明土月一日渡久地部隊本部ニ出張
命令ス

今歸仁

宿營地 陸軍軍曹 仲條嘉春

勤務 日直下士官 陸軍軍曹

將校以下二八名

井上

人員

井日命第七。號第一。河列。成

月	日	氏	名
十月	一日	中野	中尉
十月	二日	保田	曹長
十月	三日	川合	少尉
十月	四日	吉川	准尉
十月	五日	中野	中尉
十月	六日	保田	曹長
十月	七日	川合	少尉
十月	八日	吉川	准尉
十月	九日	中野	中尉
十月	十日	保田	曹長

昭和十九年十月十日

戰鬥詳報

獨立混成第十五聯隊第二大隊

下旬ニ於テ我カ海軍ノ戰用機ト交戦シ數次ニ且リ沖繩本島ノ
空ヲ偵察シ更ニ十月二八日大東島ニ銃撃ヲ加ヘ來ル機ヲテ
西諸島侵攻ノ企圖ハ露骨トナレリ

ニ 十月八日マリアナ方面敵機動部隊空襲ノ公算大ナリト見
接ス八日一〇〇球一六一六部隊長ハ南西諸島全地域ニ對シ
戰備ヲ下令セラル

大隊ハ直ニ對空監視哨ヲ立哨セシメ對空監視ヲ嚴ニスルト共ニ
第一機関銃中隊ノ一々小隊ヲシテ對空射撃ニ任セシメ對空
ニ萬遺憾無キヲ期ス

十月十日〇七〇九空襲警報發令セラル乙號戰備下令セラル
大隊ハ直ニ各宿營地毎ニ銃設機廠下ニ退避シ對空監視哨對
空射撃部隊ヲ設テ對空警戒ヲ嚴テラシム

三 ソノ狀況別紙要圖ヲ如シ

第六戰鬪影響及シタル氣象地形及住民地ノ狀態

一 氣象

1. 十月十日 晴天
2. 日没 〇六二。 日没 一八〇。

二 地形

宿營地附近一帶ハ到ル所樹木發生シ部隊ノ退避遠散及其他ノ行動ニ便宜ヲ與ヘタリ

三 住民地ノ狀況

家屋ノ構造ハ比較的粗悪シテ特ニ屋根ハ一般ニ萱葺多ク燒失彈及敵機ノ銃撃ヨリ至極燃焼シ易シ

第三 彼我ノ兵力交戦セシ敵ノ團隊號其他

一 彼我ノ兵力

敵

米軍第五艦隊第五十八號動部隊ヨリ來ル下4U
機銃戰鬪機及グラマン戰鬪機二十數機及機銃不

長井上大尉

獨立混成第十五聯隊第二大隊

有線、無線 各一ヶ分隊

二 其他略

第四 各時期ニ於ケル戰鬪經過

一 十月八日 〇。南西諸島全域ニ亘リ内號戰備下令セラル、ヤ八日
一八〇。左記今歸仁守備隊命令ヲ下達シ對空並海上警戒ヲ
嚴シ對空戰備ヲ強化ス

并奉命第三十二號

今歸仁守備隊命令

十月八日一八
於今歸仁

1. 敵情及友軍戰備ノ度ニ獨混一五作命第五一號ノ如シ
2. 守備隊ハ對空並海上警戒ヲ嚴シ對空戰備ヲ強化セリトス
3. 第五中隊ヨリ左記ノ如ク兵力ヲ差出シ對空監視ニ任ス

左記

監視哨長

下七官一
六

哨所ハ今歸仁校南西側附近トシ此地ヲ指示ス

4. 第二機関銃中隊一ヶ小隊ハ對空射撃部隊トシ校庭西側附近ニ位置シ對空射撃ニ任ズ

射撃開始ノ時期ハ大隊長ヲ命ズ

5. 兼次分中隊ハ機関銃一ヶ小隊ヲ以テ對空射撃ニ任ズ其他關シテハ橋本大尉區署ス

6. 爾余ハ各隊ハ空襲ニ際シテ掩蔽下ニ退避スル如ク準備ヲナスト共ニ各隊共燈火信管制ニ遺憾ナカラス

7. 余ハ今歸仁守備隊本部ニアリ
今歸仁守備隊長 井上大尉

下達法無キ下達命令受領者ヲ余ハ口達某記セシム

三、十日の七、九、空襲時、敵機ハ我々ノ監視哨及對空射撃部隊ハ現任務ヲ履行シ爾余ハ各隊ハ夫々既設ノ掩蔽下ニ退避ス

四、〇七一〇頃、遠カ何江島及嘉子岬方面ニアリ頻ニ爆彈ノ破裂音ヲ聞クト思フヤ、〇七三〇F4U數機南西方向ヨリ我々頭上ニ侵入ス高度一千米

遂次敵機ハ其數ヲ増シ遂ニ十四機ヲ數フ

五、頭上ヲ接回スルト數次遂ニ敵ハ目標ヲ運天港及崎山沖ヲ航行中、汽船ニ決死シ運天港對シ頻ニ急降下爆撃ヲ加フ

崎山沖、汽船ニ對シハ熾烈ナル機銃掃射ヲ浴セ先シ該船ニ着弾場

六、敵ハ更ニ他ニ目標ヲ求メントスルモノ、如ク盛ニ我々頭上ニ飛來シ我々行ヒツアルモノ、如ク

我々極力掩蔽下ニ退避シ敵機ノ敵火ヨリ我々行動公開ヲ被ラズ

努力

遂敵ハ我ヲ發見シ得ヤリシモノハ如シ

七、連天港ノ爆撃ハ更ニ猛烈ヲ極ム

敵ハ爆撃ニ銃撃ヲ併セ行ヒ遂ニ數個所ヨリ黒煙大噴シ爆音

爆彈破裂音、敵機ノ機銃音及此ニ對空火器(海軍)ノ銃聲

ハ亂レ混同ノ様相濃厚ナリ

八、〇八、四五敵機ハ逐次編隊ヲ組ミ北東方ニ向ニ飛去ス

第一次空襲ニヨリ我ニ損害無キ

九、〇九、〇七、四日戦闘機、クラマン戦闘機、機種不明輕爆撃機

三十數機ヨリ北敵機北東方方向ヨリ再ニ來襲ス

十、先シ連天港ニ對シ左復爆撃ヲ加ヘト共ニ折ニ仲曾根部北端

ニ位置シテ海軍機當上場ニ爆撃ヲ加フ、更ニ銃撃ヲ併行シ

仲曾根部南端ニ火炎發見シ逐次黒煙ハ大ク噴ク、火炎部南端ニ

一〇、〇六、六日、第六中隊第一小隊ノ分屯セル諸屯部ニ各方向ニ當リ友軍
機ノ襲撃ヲ受ケ小銃ノ威嚇ヲ聞ク、敵機ニ對テ對空射撃ヲ實施
施セシメテナラン

一、二、頭上ノ敵機ハ更ニ折ニ來襲セル敵機ト交代シ正ニ銀翼亂舞ス

連天、仲曾根ニ對シ爆撃、銃撃ヲ續行ス

一三、一〇、四日戦闘機一機大隊本部ノ隣上ニ飛來スルト相見テ

歸仁校ニ對シ機銃掃射ヲ行フ射撃機本部ヨリ三機發

我カ存在ヲ確メントセシモノ、如クナルニ我ハ掩蔽下ヨリ發射ス

二敵機ハ又連天方向ニ去ル

一三、一三、三〇有線電話ハ不通トナリ有線電報隊本部ト連絡ハ

杜絶ス

連天、仲曾根ニ對シ銃爆撃ハ更ニ反復實施シレ黒煙ハ愈々大ク

廣マリ火災ハ拡大ス、同時頃遠カ△302、敵方連天地方向當

リ黒煙大ク噴クヲ見ル

四、一六〇〇敵機ハ新ヨ其目的ヲ達シテ去ルノ如ク編隊ヲ領シ北東方
向ニ飛去ス

第五戰術機ヲ察スル敵機隊ノ機動

一、一七〇〇年備隊ハ對空監視地ヲ對空射撃機隊ニ誘引シテ
各隊ハ兵舎内ニ待機爾后ノ行動ニ準備ス

第六、將來ノ參考事項

一、對空射撃機ハ特ニ敵機超低空ニ於テ擊墜確實ト判明シテ場
合ニ限リ實施スルヲ適當トス

然ラサレハ我ノ位置ヲ敵ニ察知セシメ報復的ニ敵機ヲ射撃
撃テ蒙ルモノナリ

二、住民中老幼婦女者ノ疎開ハ速ニ實施スルヲ要ス

三、住民ノ訓練ハ徹底スルヲ要ス
將ニ今次空襲ハ最初ノモノナリシテ人心動搖シ周章狼狽増ク所
知ラサレシハ甚シク注意ス

附編 機動表

一九九式小銃 射撃機



今歸和係隊下戰全通圖
 (十月十日 野上 野上 野上)



附圖第一

合二形リ者其施スルヲ適當トス
 然ルニハ故ニ我ノ位置ヲ敵ニ察知セシメテ報復的ニ敵軍の既爆
 撃ヲ蒙ルモノナリ
 一 往民中老幼婦女者疎開ハ速ニ實施スルヲ要ス
 二 往民中老幼婦女者疎開ハ速ニ實施スルヲ要ス
 三 往民中老幼婦女者疎開ハ速ニ實施スルヲ要ス



一九九六小銃実包

二五五發

(以上)